

ほつかいどう NIE 通信

発行 北海道NIE推進協議会

〒065-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内

第4号

完全週休5日制が実施され1年が経過しました。これは、学校・家庭・地域社会の役割を明確にし、それぞれが協力して豊かな社会活動を様々な場所で実験しながら体験活動などを子の会に提出した。これらは、学校・家庭・地域社会の役割を明確にし、それぞれが協力して豊かな社会活動を様々な場所で実験しながら体験活動などを子の会に提出した。



心の時代とN-ET

「バスや電車で席をゆずる」といった道徳観や、義感が身に付いているという注目すべき内容が報告されています。

教育で道徳教育の果たす役割や重要性がますます強調されています。

が行われます。道徳の時間をお充実させるには、子どもの心に響く適切な資料の選定が求められます。新聞は日々の世界を映し出す反射鏡といわれ、政治、経済、文化、家庭、スポーツ等あらゆる情報分野を対象に編集されています。道徳の授業の資料として十分活用でき、道徳の時間のNIEの広まりが予想されます。

イラク戦争を通して、学習指導要領・道徳編4-1(10)の「国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」生き方を考えさせることができます。また、新型肺炎問題を通して、同31

(2) い自他の生命の尊さ」を
考える機会になります。
道徳の時間でのNIEの
実践は、家庭で新聞を読
む契機ともなり、親子の
対話を深まることでしょ
う。

鞆品下トハツグ文房具化粧品子供自身も自分らの体に合わせるのが大変らしい。商業サイドがでは巧みに四季に応じた新製品を作り、どん欲に売り込む。子供たちは男女とも毎日シャワーを浴びて青春の汗やにおいを取り、甘い香りのする子も多い。特に女の子は洗剤会社のコマーシャルよろしく、シャワーをしてブローとかやれとか。大人顔負けの髪型を決め登校していく。

道内の本年度NIE実践校（第1次）が決まり、小学校4校、中学校13校、高校7校の計24校で、小学校が例年に比べやや少なかった。新規実践校は10校実践2年目の継続校は14校。7月には第2次として6校が認定される予定だ。さらに北海道NIE推進協議会が独自に認定した2校を加え、本年度の実践校は計32校と昨年度より4校増えることになる。

づくりがこれまで以上に求められていることや、札幌で昨年、初の全国大会が開かれたことなどを背景に関心が高まり、希望校は認定ワク（北海道は28校）をかなり超えた。北海道は最終的に30校まで認められるが、このほか2年間の実践終了校の一部から「3年目継続」の強い希望が寄せられたため、同協議会はこのうち2校に絞って新たに新聞購入予算を計上し、独自に認定することにした。実践校には活動する先

*新規校 茂岩小(千
勝管内豊頃町)月寒中、發
寒中(以上札幌市)清園
中(岩見沢市)綠陽中(登
別市)嵐山中(旭川市)
問寒別中(留萌管内幌延
町)室蘭清水丘高(室蘭
市)帶広柏葉高(帶広市)
常呂高(網走管内常呂町)
*継続校 伏見小、新

新潟市北区
館市) 静内中(日高管内
静内町) 白糠中(釧路管
内白糠町)
＊継続校 札幌東商業
高、札幌真栄高(以上札幌
市) 音更高(十勝管内音
更町)
◇北海道N-E推進協
議会認定校
もみじ台南中、西岡北
中(以上札幌市)

**新規10校、
継続14校**

本年度実践校（1次）が決定

継続 校 14

二
四

十勝毎日新聞社 NIE 委員会は毎年6月、中学生を対象に「学級・学校新聞づくり講習会」を開いている。技術面の向上と新聞づくりの定着を目指しているが、昨年からは単なる講義に終始せず、より実戦的な内容に改めた。

帯広・十勝管内の全中学校に案内を出し、希望に応じて実施している。今年もすでに7校から100人近い参加希望が来ている。昨年は帯広市内

の南町中、第1中、第5中、西陵中に加え、芽室、芽室西中、音更・共栄中、広尾・豊似中の計7校から110人が本社大ホールに集まり、まず新聞づくりの過程をビデオで学んだ。

次いで本社整理部の記者が新聞づくりの基本とレイアウトについて指導。このあと4・5人のグループに分かれて見出しの付け方に取り組み、次々に与えられる記事に熱心な話し合いが持たれ

整理部の講師が「記事の中からキーワードとなる言葉を見つけることが大切です」とアドバイス。各校の引率の先生も話し合いの輪に入り、見出しが絞られていく。その結果決まった各班の見出しが一つずつ取り上げて全体討論へと続ける。終了時間は30分もオーバーした。

生徒たちはみんな、各校の新聞づくり委員会の中核的な存在のようだ。



の学校現場に順調に浸透しつつあるとしたうえで、新聞の効果的活用などについて先生方のさらなる理解と努力を呼びかけた。次いで十勝管内豊頃町茂岩小など本年度実践校（第1次）24校の代表に、遠藤紘之助・北海道新聞教育研究会会长から

中学生の新聞づくり支援 十勝毎日新聞 「情報処理を適

十勝毎日新聞

情報処理を適切に

り得た多くの先生方の実践をあらためて振り返ってみました。そこで再認識したことは、新聞を「発表」という学習活動に結びつけた時に、「情報活用能力」「聞く力」「話す能力」「みずから学ぶ姿

新聞づくり

寄せていただき会場で回答できなかつたときの対しては、後日お返事を差し上げることになりました。その中に、「この会場に集まっているのはNIEの信奉者ばかりで、批判的な視点からの提

トがあり、常に検証[は]必要です。NIEとて例外ではありません。それでも、子供たちの目の輝きや、教師が子供たちと充実感を共有した時の喜びは何ものも代え難く、そのような喜びを得た先生方が、よ

その大学院生に
のよなお返事を送りました。
NIEに携わる先生
方の熱い思いをあらためて感じることができ、
私にとっても励ました。
なつた大会でした。

北海道N・E指導團議会（会長・小林甫北大教授）の本年度総会・懇談会が5月24日、北海道新聞本社会議室で開かれ実践校の先生や、協議会加盟の報道各社の代表ら約70人が、活動のより一層の進展を目指して交流した。

誌定書が仕送された
懇談会では、今年3月
下旬に行われた海外N.I.
E事情視察（日本新聞教
育文化財団主催）に参加
してデンマーク、ス
ウェーデンを訪れた三上
久代・札幌市月寒中教諭
と毛利徳晴・士別商業高
教諭が、学校や新聞社訪
問などの印象について報
告。毛利教諭は「新聞を
使つて一方的な授業は、

新聞のお仕事期間が廻るにつれて、年間となつてゐるため、その後の実践をどう継続していくかが課題。また活動者たちの連携組織がなく、情報が薄いまま個々の活動に埋没しがちな問題も。

充実感を共有するため

この大会に集まってきたのです。完璧な指導など、畢竟してあり得るので、思ふべきか。子供たちの成長にとって効果のあることを、より効果的にたらしめようと考へ、実践し、検証して次のステップにつなげようとするのが教育実践であり、教師は現場に立ち、身をもってそれを

実践校に認定書伝達
NIE推進協総会

初の実践リーダー懇談会
道内のNIE推進活動
で中心的な役割を果たし
ている先生方による初の
「実践リーダー懇談会」
(北海道NIE推進協議
会主催)が5月23日、北
海道新聞本社会議室で開
かれ、実践者間のネット
ワークづくりの必要性な
どについて話し合った。
現正のNIE活動は、

昨年のNIE全国大

勢」つまり「生きる力

言が欠けてゐる」という、

習会は、技術面だけでな

生徒が必要な情報を集め

組織づくりなど論議

一方で「教科での新聞活用は有益。子供たちも楽しくやっていた。」と活動を評価する意見も相次いだ。さらに「教員養成の段階でN・Eを教えるべきだ」「校内研究での位置づけも必要だ」などの提言もあった。

旭川市立春光台中学校

実践校
ル
ボ

「今の歴史」を学ぶ

窓から大雪連峰が一望できる高台にある春光台中学校（小島治士校長、生徒数396人）。NIE実践校になつて2年目を迎え、早くも5月からNIE授業を開始した。2年生担任の添田英樹教諭にお願いし、「いつもの授業」「いつものスピーチ」の様子を見学させていただいた。（北海道新聞NIEスタッフ・江本 麻貴）



書き込む生徒たち
仲間の発表について意見、感想をノートに

「いつものスピーチ始めるぞ」。春の穏やかな光がそぞぎこむ2年1組の教室で社会科の授業が始まつた。

千田真輝君が取り上げたのは、5月20日北海道新聞朝刊の一面向を飾った「弥生時代500年早まる」の記事。

「歴史が変わるかもしれない」と話す。生徒た

れた。

津田知佳さんは市立

多賀千亜季さんは市立

根室病院で、輸血ミスで男性患者が死亡した記事に注目。

「命を預かる医療現場で働くのだから、責任をもつて仕事をほしい」と感想を述べた。

津田知佳さんはC02のエネルギー実験を夕張で行なうことを選んだ。

二酸化炭素とエネルギーを入れ替える

なんて、そんないい話があるのか興味を持った」とい

う。他の生徒た

から「地球のC02も減らせたらいいね」という感想もあつた。

那須野淳君は5月16日読売新聞朝刊の「有事法案衆院通過」の記事を取り上げた。「基本的人権にかかわ

最新記事で次々スピーチ

ちは地図帳を広げて土器の発掘場所を確認している。多賀千亜季さんは市立根室病院で、輸血ミスで男性患者が死亡した記事に注目。「命を預かる医療現場で働くのだから、責任をもつて仕事をほしい」と感想を述べた。

多賀千亜季さんは市立

根室病院で、輸血ミスで

男性患者が死亡した記事

に注目。「命を預かる医

療現場で働くのだから、

責任をもつて仕事を

ほしい」と感想を述べた。

多賀千亜季さんは市立

根室病院で、輸血ミスで

男性患者が死亡した記事

に注目。「命を預かる医

療現場で働くのだから、

責任をもつて仕事を

デンマーク新聞発行者協会は、「民主主義社会にとつて新聞はどのような役割を果たすかを子供たちに知らしめる」を目標とする新聞36社の団体。主な活動は、学校新聞コンテスト、情報提供(教員向け新聞発行)、教員研修会、NIE(才の開拓)関心を高めるビデオ制作、など。訪問して「NIEは生徒よりもまず教員を巻き込むことが重要」と再認識した。デンマークでは、ポリチケン新聞社、ユラソズボステン新聞社、付属メディアリウムなども訪ねた。报社は教育系出版社と提携して教材を開発し、教育用新聞は外部の

ジャーナリストに依頼している。ユ社付属メディアリアリウムは、メディアとは何かを体験する場所。子供たちにジャーナリストを演じさせ、新聞に興味を持つようし向けるプロ

グラムで、子供の評判はいいそうだ。

学校ではニュー・ホール・テスコーレ国民学校（幼小中一貫義務教育）でNIE（コンテスト（新聞作成）に優勝したクラスを見学。図書館は「教育

士別商業高
——北欧——

「民主主義」室

セントラ」と呼ばれ、もちろん新聞も置かれていた。年1回の定期試験は1科目の所要時間式で、NIE授業がその練習になるらしい。スウェーデン・マルメ校のスクーラン基礎学校（7～15歳までの9年制）では、9年生の社会科の授業が参考になつた。新聞2紙を使い、イラク問題に関するワーカシートによる授業を展開していた。見出し

「民主主義」実感の1週間

士別商業高校教諭

毛利
禎晴

の比較、内容に偏りはないか、写真やレイアウトはどうか、などがポイント。生徒たちは日ごろからNIEの授業に慣れ親しんでいるようで、たんたんとこなしていった。「新聞は絶対ではない。常に考えながら読むことが大事」という根本的なことをあらためて痛感させられた視察だった。NIE活動に身を置くと、新聞を礼賛しながら、「なぜなら」と思い込み、「くりして新聞を使おう教員も少なくないが、生徒あつてのNIEであること」を決して忘れてはいけない。(日本新聞教育文化財団主催のNIE海外視察団に参加し3月下旬、デンマークとスウェーデンを訪問)

日本新聞教育文化財団は「第8回NIE全国大会」への教師の参加を呼びかけている。7月31日8月1日の両日、島根県松江市で開かれ、大会フローランは「明日に生きるNIE」学校・家庭・地域とともに」。初日は藤岡大拙・島根女子短大学長の記念講演、全体集会1「NIE」どもから大人まで「島根からの提案」、同2「今あるらため新聞を見直す」など。2日目は小・中・

全国大会

参加呼びかけ

（北海道新聞NIE推進センター委員・藤井正友）

高校各2分科会（総合学習・領域・特活と、教科）の計6グループに分かれ討論する。午後から実践教師研修会（定員30人）を開く。

参加希望者は申込用紙（同財団NIE部TEL045・661・2031か、TEL011・210・5802で用意している）に記入し、6月30日までに同財団にファクス（045・661・2039）で申し込みを。資料代として3千円が必要。実践研修会への参加希望者は別途、申し込みを。交通費、宿泊費などは実費負

様な対応に出てわして面食らったからです。この学校はNIE実践校として活動した経緯もあり、同僚は旧知の実践の先生を通して事前に訪問連絡してあったのです。が、「あなたの上司をして教育委員会から許可を取つてから来るのがスジではないか」というのが教頭の弁。「管理者として責任があるから」ともいわれたそうです。教頭先生の立場は分かるにしても、事件発生を恐れる余り外部の人を必要以上に警戒するのはどうなのでしょうか。安全優先はもちろんですが、「開かれた学校」とのかねあいも考えてほしい、と感じました。



写真部を訪問した小樽・長橋中の生徒たち

昨年4月以降 学年ぐるみ、あるいは少人数のグループで新聞社を見学する小学生が急増している。学習指導要領の改正に伴い、小学校3年生以上の授業で「総合的な学習の時間」が始まったためだ。

北海道新聞社の本・支社、工場には、昨年度1年間で、道内の小中学校約200校から合わせて7500人が訪れ、コンピュータによる紙面づ

くいから白刷り、発送までの製作工程を学ぶとともに、新聞の果たす役割、課題などについて理解を深めた。

本年度も、黄金週間明けから見学者が相次ぎ、本社・札幌工場だけで、6月中旬までに約40校500人が訪れた。

以前は、卒業前の修学旅行が大半を占めていたが、総合学習がスタートして以来、体験学習や職業調べの一環として訪れ

在り、これが多くの場合、か
自主体験や調査・研究を通じて「生きる力」をけ
ぐくむのが総合学習の狙
いで、情報社会を担う新
聞社は、児童・生徒たちの
の目に「生きた教材」として映つているようだ。
北海道新聞社は、こう
した教育現場の要望に応
えることがNIE活動で
ある、と位置付け、今ま
から案内スタッフを増昌
したほか、「見学者新聞」
の発行に力を入れるなど

子供たちからの質問は、「取材記者の一日」から「トップ記事の決め方」「仕事のやりがい、失敗談」など、実に多岐にわたりっている。中には、「一日に使う印刷インクの量は?」「新聞用紙の原料となる木の種類は?」などといった、即答できない質問も少なくないが、「分からぬことを聞くことがインタビュ―のいろは」と、盛んな質問を

あの衝撃的な大阪教育大付属池田小学校の児童殺傷事件から6月8日で丸2年。学校での事件をめぐって、行政や学校管理者の責任があらためて問われていますが、だからといって、校舎管理を強める余り学校を地域社会から閉ざされたものにしてはなりません。というのも先日、同僚が札幌市内のうち一小校を訪

「生きた教材」
実地に

新聞社見学の小中生急増

ビデオを見たあと、編集局に案内し、瞬時に組み上がる「大組み」やデジ

宿泊、懇親会参加、観光ツアーや詳細は同財団が北海道NIE推進協議会へ。

編集後記